

日本比較教育学会 第57回大会プログラム

Japan Comparative Education Society
The 57th Annual Conference

日時： 2021年6月25日（金）～27日（日）
場所： オンライン開催（Zoom）
主催： 日本比較教育学会
大会校： 筑波大学

ご挨拶

この度、日本比較教育学会の第 57 回大会を筑波大学が担当させていただき、皆様をお迎えできますことを大変光栄に存じます。

本来はつくばの地で直接お会いする機会を設けるべきところですが、今回は、コロナ禍において大会を確実に開催することを優先的に考えた結果、オンラインによる開催といたしました。

今次大会では、ラウンドテーブル 13 件、自由研究発表 151 件、シンポジウム、2 つの課題研究を予定しています。シンポジウムでは「新時代の子どもの学びの在り方を国際的に考える一求められる資質能力と学習のアプローチをめぐって」をテーマとし、「VUCA」(不安定、不確実、複雑、曖昧)という言葉に象徴される世界の中で、子どもたちの学びの在り方はどのように構想されうるのかを議論します。新時代の子どもの学びを諸外国の比較から検討し、翻って日本の子どもの学びの未来を考えてみたいと思います。

また、課題研究Ⅰでは、昨年、残念ながら開催に至らなかった中村学園大学・中村学園短期大学の企画を引き継ぎ「保幼小接続の国際比較」を予定しています。課題研究Ⅱでは研究委員会による「学校に行けない子どもたち(OOSCY)とは—アセアン諸国における就学阻害要因と教育協力ネットワークの展開—」が企画されています。みなさまと活発な議論ができることを楽しみにしております。

オンライン開催については会員の皆様に予期せぬ形でご不便をおかけすることがあるかもしれませんが、大会準備委員会一同、できるだけ準備は心がけますので、皆様のご理解とご協力を賜りたく、よろしく願いいたします。

実り多き大会となりますよう、多くの会員のご参加を心よりお待ちしております。

第 57 回大会準備委員会委員長
藤井 穂高

《 大会 日 程 》

	6月25日 (金)	6月26日 (土)	6月27日 (日)
9:00		9:00-11:30	9:00-11:30
10:00		自由研究発表 I	自由研究発表 III
11:00		11:30-12:30	11:30-12:30
12:00		昼食	昼食
13:00	12:30-14:30 常任理事会	12:30-15:00	12:30-15:00
14:00		自由研究発表 II	自由研究発表 IV
15:00	14:45-17:00 全国理事会		
16:00		15:10-17:25	15:10-17:25
17:00		シンポジウム	課題研究 I 課題研究 II
18:00	18:00-20:00 ラウンドテーブル	17:30-18:30	
20:00		総会	
21:40	20:10-21:40 若手研究者交流会		

大会参加者へのご案内

1. 受付

今大会では、当日の大会受付は行いません。大会の開催日時になりましたら、会員管理情報システムのマイページ (<https://service.gakkai.ne.jp/society-member/mypage/JCES>) にログインの上、大会オンラインサイトへアクセスしてください。

大会参加費の支払いが完了した方に、後日、大会オンラインサイト (Zoom リンク等の情報を掲載) へのアクセス方法の詳細をお知らせいたします。

2. 大会参加費等

- 大会参加費は、通常会員3,000円、学生会員1,000円、特別会員2,000円、臨時会員 (非会員) 3,000円となります。
- 大会参加申込及び大会参加費の払込みは6月27日 (日) 12時まで受け付けます。ただし、土曜・日曜は参加申込システムの ID 及びパスワードに関するお問い合わせへの対応はできません。参加申込の手続きはできるだけ早めにお済ませください。
- 参加申込は、オンライン参加登録システムから手続きをお願いいたします。
(<https://service.gakkai.ne.jp/society-member/auth/apply/JCES>)

3. 大会本部

大会当日の問い合わせ先：

日本比較教育学会第 57 回大会準備委員会

E-mail : jces57ut@gmail.com

※電話での問い合わせは受け付けておりません。メールにてお問い合わせください。

4. 常任理事会・全国理事会・紀要編集委員会

常任理事会は 6 月 25 日 (金) 12 時 30 分より、全国理事会は同日 14 時 45 分より行います。開催の詳細については、学会事務局より別途ご連絡いたします。なお、今大会中に紀要編集委員会は開催されません。

ラウンドテーブルについて

1. 発表時間

- ラウンドテーブル：発表・質疑応答、全体で2時間 [6月25日（金）18時～20時]

2. 事前リハーサル・当日打ち合わせ

- ラウンドテーブルの Zoom 設定は、各企画者にてお願いいたします。企画者には、大会オンラインサイトに掲載する Zoom リンク等の情報について、追って照会のご連絡を差し上げます。
- 事前リハーサルや当日打ち合わせの開催については、各企画者により対応をお願いいたします。なお大会当日、運営スタッフは配置されません。各ラウンドテーブル内で事前に役割分担等をご確認ください。

3. ネットワーク環境

事前に当日の Zoom リンクを用いてリハーサルを実施するなど、良好なネットワーク環境をご準備ください。大会当日、各企画者側で問題が生じた場合、速やかに大会準備委員会にご連絡ください。

4. 発表取り消しの場合

発表取り消しの場合、速やかに大会準備委員会にご連絡ください。

日本比較教育学会第 57 回大会準備委員会

E-mail : jces57ut@gmail.com

自由研究発表について

1. 発表時間

- 個人研究発表：発表20分、質疑10分（計30分）
- 共同研究発表：発表20分、質疑10分（30分の場合）、発表40分、質疑20分（1時間の場合）
- 各部会での総括討論はありません。発表者も自由に移動していただいて結構です。なお、各発表の間には休憩時間を設けておりませんので、ご注意ください。司会者の方には、質疑時間の有効な活用をお願いいたします。

2. 事前リハーサル・当日打ち合わせ・発表資料等

- 各部会の司会者・発表者を含めた事前リハーサルを実施予定です。詳細については後日、該当者にご連絡を差し上げます。
- 大会当日、午前の発表は8時30分から、午後の発表は12時から、各部会の司会者と運営スタッフで打ち合わせを行います。
- 各部会の発表者の方は、午前の発表の場合、8時30分～8時50分、午後の発表の場合、12時～12時20分の間に各部会の Zoom リンクにアクセスの上、①発表資料データの受け渡し（Zoom のチャット機能を利用）、②発表資料の配布の有無及び配布方法の確認、③画面共有等の操作の最終確認の実施をお願いいたします。
- 当日参加者への発表資料のデータによる配布は必須ではありませんが、各部会の司会者と運営スタッフには必ず発表資料データをお渡しく下さい（トラブル時の対応のため）。発表資料を配布される場合は、パスワードの設定による閲覧制限や編集制限等、必要に応じてデータを保護ください。また、必要に応じて、発表資料にデータの取り扱い上の注意等を記載ください。

3. ネットワーク環境

インターネット接続ができない等、ご利用のネットワーク環境により生じた問題への対応はできません。良好なネットワーク環境でアクセスするようにしてください。

4. 発表取り消しの場合

発表取り消しの場合、速やかに大会準備委員会にご連絡ください。なお、発表取り消しの場合でも発表時間の繰上げは行いません。

日本比較教育学会第 57 回大会準備委員会

E-mail : jces57ut@gmail.com

自由研究発表

<p>6月26日（土） 自由研究発表Ⅰ</p> <p>（午前）9：00～11：30</p> <p>I-1 東南アジア地域（1）</p> <p>I-2 中近東地域</p> <p>I-3 アフリカ地域（1）</p> <p>I-4 オセアニア地域</p> <p>I-5 初等・中等教育</p> <p>I-6 高等教育（1）</p> <p>I-7 ジェンダーとマイノリティ</p> <p>I-8 シティズンシップ</p>	<p>6月27日（日） 自由研究発表Ⅲ</p> <p>（午前）9：00～11：30</p> <p>Ⅲ-1 東アジア地域（2）</p> <p>Ⅲ-2 東南アジア地域（3）</p> <p>Ⅲ-3 ヨーロッパ地域（2）</p> <p>Ⅲ-4 高等教育（3）</p> <p>Ⅲ-5 国際教育・教育交流（2）</p> <p>Ⅲ-6 多文化教育（1）</p> <p>Ⅲ-7 開発と教育（1）</p> <p>Ⅲ-8 教育の機会</p> <p>Ⅲ-9 教育と福祉</p>
<p>6月26日（土） 自由研究発表Ⅱ</p> <p>（午後）12：30～15：00</p> <p>Ⅱ-1 東アジア地域（1）</p> <p>Ⅱ-2 東南アジア地域（2）</p> <p>Ⅱ-3 ヨーロッパ地域（1）</p> <p>Ⅱ-4 アフリカ地域（2）</p> <p>Ⅱ-5 中南米地域</p> <p>Ⅱ-6 高等教育（2）</p> <p>Ⅱ-7 国際教育・教育交流（1）</p> <p>Ⅱ-8 研究方法</p>	<p>6月27日（日） 自由研究発表Ⅳ</p> <p>（午後）12：30～15：00</p> <p>Ⅳ-1 東アジア地域（3）</p> <p>Ⅳ-2 東南アジア地域（4）</p> <p>Ⅳ-3 ヨーロッパ地域（3）</p> <p>Ⅳ-4 北アメリカ地域</p> <p>Ⅳ-5 幼児教育</p> <p>Ⅳ-6 高等教育（4）</p> <p>Ⅳ-7 教師教育・教員問題</p> <p>Ⅳ-8 多文化教育（2）</p> <p>Ⅳ-9 開発と教育（2）</p>

シンポジウム・課題研究

<p>6月26日（土） 15：10～17：25</p> <p>シンポジウム</p> <p style="text-align: center;">新時代の子どもの学びの在り方を 国際的に考える —求められる資質能力と学習の アプローチをめぐって—</p>	<p>6月27日（日） 15：10～17：25</p> <p>課題研究Ⅰ</p> <p style="text-align: center;">幼保小接続の国際比較</p> <p>課題研究Ⅱ</p> <p style="text-align: center;">学校に行けない子どもたち（OOSCY）とは —アセアン諸国における就学障害要因と 教育協力ネットワークの展開—</p>
--	--

ラウンドテーブル

2021年6月25日（金） 18：00－20：00

【研究委員会企画】比較教育学を学ぶ人のためのアカデミック・キャリアシリーズ III
—比較教育学の実践・成果をどう発信するか—

企画者：市川 桂（東京海洋大学）、鴨川 明子（山梨大学）

司会者：乾 美紀（兵庫県立大学）

発表者：川口 純（筑波大学）、荻巣 崇世（上智大学）、佐藤 仁（福岡大学）

研究委員会企画による若手支援企画の第三弾。大学院生やポストク時には、いつ、どのような形で、アウトプットするとよいかを考えることが多い。例えば、『比較教育学研究』に投稿する、「国際誌に投稿する」、「博論を書く」、「博論を出版する」などが話題として考えられる。今回は、学会員のキャリア形成のリアル（研究のリアル）について伺いながら、特にアウトプットの工夫に焦点を絞って、自由に意見交換する場としたい。

災害の記憶／記録の伝承を考える

企画者：伊藤 駿（広島文化学園大学）

発表者：中丸 和（大阪大学大学院）、高原 耕平（人と防災未来センター）

松本 渚（大阪大学大学院）

本ラウンドテーブルでは、チェルノブイリ原発事故、阪神淡路大震災、原爆投下という異なる災害を取り上げ、その記憶／記録をいかに伝承するのかということを検討する。東日本大震災から10年が経過したが、その伝承を巡っては様々な問題が取り沙汰されている状況にある。また、発生した災害等の様々な背景によって伝承のあり方は大きな影響を受けていることは想像に難くない。そこで本ラウンドテーブルでは、それぞれの災害の背景を踏まえた上で、現在に至るまでその事実がいかに伝承しようとされてきたのかを捉えることを試みたい。

コロナ禍とトランスナショナル高等教育の行方
—海外分校と国際共同大学を中心に—

企画者：上別府 隆男 (福山市立大学)

司会者：上別府 隆男 (福山市立大学)

発表者：我妻 鉄也 (千葉大学)、塚田 亜弥子 (東京大学)、中島 悠介 (大阪大谷大学)

コロナ禍が引き起こした移動制限により高等教育も多大な影響を受けているが、本ラウンドテーブルでは、トランスナショナル高等教育(教育プログラムと教育プロバイダーの国際移動)の一角をなす教育プロバイダー移動へのコロナ禍の影響を取り上げる。海外分校(外国分校)(International Branch Campus: IBC)と国際共同大学(International Joint University: IJU)に焦点を当て、マレーシアのIBC、韓国のIBC、アラブ首長国連邦のIBC、ベトナムのIJUとIBCの現状報告を元に、参加者とともに、トランスナショナル高等教育の今後を探りたい。

ヨーロッパの教育政策にみる早期離学と進路保障
—学校から離れる若者、多様な学び方と教育訓練の場—

企画者：園山 大祐 (大阪大学)、辻野 けんま (大阪市立大学)

司会者：辻野 けんま (大阪市立大学)

発表者：園山 大祐 (大阪大学)、斎藤 里美 (東洋大学)、小山 晶子 (東海大学)

布川 あゆみ (東京外国語大学)、見原 礼子 (長崎大学)

有江 ディアナ (大阪大学大学院)、二井 紀美子 (愛知教育大学)

林 寛平 (信州大学大学院)、本所 恵 (金沢大学)、丸山 英樹 (上智大学)

中田 麗子 (東京大学)

早期に学校から離れる若者たちに対してヨーロッパ諸国はどのような対策をとっているのか。政策実態を基に「予防、介入、補償」という観点から検討してみたい。第1に、EUやOECDはなぜ早期離学に関心があるのか。第2に、各国(イギリス、フランス、ドイツ、オランダ、スペイン、ポルトガル、スウェーデン、ノルウェー、EU新規加盟国)では、この20年間どのような取り組みがなされ、どのような特長があるのか考察する。第3に、参加者と一緒に、日本を含めた学校教育の課題として離学の意味を問うてみたい。本ラウンドテーブルでは、『学校から離れる若者たち』ナカニシヤ出版を基に議論を進めるが、今後の研究課題も含め、参加者と一緒に活発な議論を期待したい。参加者は、ヨーロッパ地域の専門家に限定せずに、地域を超えた、あるいは先進国に限定されない、教育義務の在り方、(非)学校方式の多様性、COVID-19禍における学校や授業の在り方の変容を受けて、離学について再考できればと考える。

ポストコロナに向けた国際教育交流
—ICTを活用した新たな教育実践並びに国際教育交流の可能性と方向性を考える—

企画者：太田 浩（一橋大学）、星野 晶成（名古屋大学）、新見 有紀子（東北大学）

司会者：太田 浩（一橋大学）

発表者：星野 晶成（名古屋大学）、新見 有紀子（東北大学）

高等教育の国際化と国際教育交流は、学生の国際的な流動性を量的に拡大することで進展してきたが、新型コロナウイルス拡大の影響を受けて、越境を伴う学生の移動は休止している。本ラウンドテーブルでは、国内外大学におけるパンデミック下での国際教育交流の状況と課題をレビュー、比較したうえで、急速に広がるICTを活用した国際教育交流の手法や実践例を概観する。その上で、ポストコロナにおける国際教育交流の可能性と方向性について、参加者の体験や事例とともに議論したい。渡航による環境への負荷、ニューノーマルへの対応には、物理的な国際移動（特に短期の海外留学）に頼らない新しい国際教育交流の様相が求められるのではないか。その際、カリキュラムの国際化を核とする「内なる国際化」の推進は鍵を握るであろう。一方、非認知能力の育成を考えると、体験学習としての海外留学がより重視されるという見方もある。

開発途上国の学校教育におけるCOVID-19の影響

企画者：芦田 明美（早稲田大学）、關谷 武司（関西学院大学）

司会者：關谷 武司（関西学院大学）

発表者：石坂 広樹（鳴門教育大学）、芦田 明美（早稲田大学）、江崎 那留穂（愛知淑徳大学）

吉田 夏帆（高崎経済大学）

2020年のCOVID-19感染拡大により、世界中で休校措置が取られ、未だ多くの国で完全な形での対面授業の再開には至っていない。このような状況を踏まえて、ボリビア、ホンジュラス、カンボジア、ミャンマー、ネパール、ラオス、ザンビアの7カ国を対象に、コロナ禍の教育への政府、教育省、学校、教員レベルでの実際の対応について緊急調査を実施した。居住地域が同じにも関わらず、オンライン教育へのアクセス有無により生じた新たな教育格差等、最新の実態を報告する。

「ウイズ・ポストコロナ」の中国教育研究
—実践と今後の可能性—

企画者：劉 靖（東北大学）

司会者：南部 広孝（京都大学）

発表者：劉 靖（東北大学）、武 小燕（名古屋経営短期大学・子ども学科）
盧 中潔（浙江師範大学）、日暮 トモ子（日本大学）

2020年新型コロナウイルス感染症の拡大は、外国教育研究に大きな影響を及ぼしている。コロナ禍で海外渡航制限によって、海外への現地調査が制限されたため、外国教育に関する研究を中心にしている研究者たちの研究は難航している。本ラウンドテーブルでは、本学会中国教育研究に関心のある会員より、コロナ禍の中国教育研究を行った経験を共有し、中国教育研究の新たな研究のやり方の可能性および妥当性を議論した上で、「ポストコロナ時代」における外国教育研究者が身に着けるべき「研究の力」について意見交換を行う。また、「ポストコロナ時代」における中国教育研究に関する新たな視点や動向および比較教育研究への可能性を検討していきたい。

**Socio-cultural Contexts in Critical Thinking and Creativity:
From the Discussion at OECD-CERI Project on Evaluation of Learning Outcome
in Higher Education**

企画者：杉村 美紀（上智大学）

司会者：杉村 美紀（上智大学）

発表者：西村 幹子（国際基督教大学）、小松 太郎（上智大学）、鎌田 武仁（上智大学）

How should the socio-cultural context be considered when conducting international comparative studies on evaluation of learning outcome? How can we consider the concepts and norms that form the unit of comparison? In this roundtable, we will discuss the importance of the socio-cultural context, which OECD-CERI is currently taking as the subject of discussion in the international collaboration research on learning outcome indicators for higher education initiated in 2019. The participants in the OECD-CERI project from Sophia University and International Christian University will present their perspectives and discuss the controversial issues of conversion and diversion in higher education with international collaborative researchers.

義務教育とホームスクール規定の国際比較

企画者：中島 千恵（京都文教大学）

司会者：中島 千恵（京都文教大学）、服部 美奈（名古屋大学）

発表者：中島 千恵（京都文教大学）、服部 美奈（名古屋大学）、杉本 均（京都大学）

コメンテーター：永田 佳之（聖心女子大学）、澤野 由紀子（聖心女子大学）

普通教育機会確保法の導入以来、日本の公教育はより幅広く多様な人々と学習形態を包摂する制度へと模索を始めている。誰にどんな教育を提供しうるのか、公教育制度の次の段階を構築しなければならない。教育機会の平等の観点から、すべての学習者に質の高い教育を保証する仕組みを形成しながら、多様な状況に置かれた子ども達の教育機会とその後の教育、そして職業へとつながっていく実質的な学びを保証しうる制度を考えなければならない。それは、簡単なことではない。

そこで本ラウンドテーブルでは、日本、アメリカ、シンガポール、インドネシア、韓国における義務教育規定と免除規定あるいは例外措置としてのホームスクールの法的位置づけを比較し、以下の点について考察、議論する。(1) 義務教育の前提と考え方 (2) 例外措置（免除規定）によって、どのような人々がどのように包摂されているのか (3) そして義務教育の例外措置として、ホームスクールを許可している場合、法令上、教育の質はどのように担保されているのか。これらの比較を通して、今後、日本がどのように多様な人々を包摂していけるのか他国からの学びについて議論する。

研究方法：アメリカ（オレゴン州、カリフォルニア、アラスカ州）、シンガポール、インドネシア、韓国における義務教育とホームスクールに関する国レベルの法令を訳出、分析した。これらの4か国を選んだ理由は、第1に、アメリカ、シンガポール、インドネシアでは、ホームスクールが法制化されている。第2に、韓国では従来無認可だった教育が新たに法制化された。第3に自由資本主義のアメリカ、イスラム圏のインドネシア、PISAで上位に位置するシンガポール、そして、韓国と日本では、社会の根幹が著しく異なる。これらの異なる社会における義務教育とホームスクールに対する考え方の違いを比較し、社会の根本的機能である公教育制度のあり方を多様な観点から考察する。

【謝辞】本研究は科学研究費補助金、課題「公教育の次の段階の模索—共通の基盤形成に向けて—」挑戦的研究（萌芽）（課題番号 19K21799）研究代表者：中島千恵により実施できました。また、韓国とアメリカについては、情報の提供、表の作成などを含め、本科研の分担者である石川裕之会員（京都ノートルダム女子大学）と研究協力者の宮口誠矢氏（東京大学大学院・インディアナ大学客員研究員）の協力を得ました。心からお礼を申し上げます。

国際比較からみたシティズンシップ教育の動向

企画者：渋谷 恵 (明治学院大学)

司会者：渋谷 恵 (明治学院大学)

発表者：原田 亜紀子 (慶應義塾高等学校)、菊地 かおり (筑波大学)

見世 千賀子 (東京学芸大学)、中山 あおい (大阪教育大学)

島埜内 恵 (白鷗大学)、戸野塚 厚子 (宮城学院女子大学)

社会が大きく変化するなか、国や地域、国際社会におけるシティズンシップ教育の理念と実践にも新しい動きが生まれています。オーストラリア、デンマーク、イギリス、フランス、ドイツ、スウェーデンの教育に関する話題提供を出発点に、参加者のみなさんとそれぞれの研究領域や問題関心から見えてきた新しい動向を共有し、シティズンシップ教育研究の枠組みや視点を多様な観点から自由に意見交換する場にしたいと思います。

高大接続問題の日韓比較

企画者：小川 佳万 (広島大学)

司会者：小川 佳万 (広島大学)

発表者：松本 麻人 (名古屋大学)、小野寺 香 (奈良女子大学)、姜 姫銀 (福岡大学)

近年、大学入試を主軸にすえた高大接続改革が日韓両国で進行している。そのキーワードを日本語で言えは、多様な選抜、新しい学力の評価、探求型学習、文理融合型授業、等であり、基本的な方向性は日韓両国で一致している。その一方、細部に注目すれば、各国独自の伝統や教育文化に影響されて、異なった様相を見せているとも言える。本ラウンドテーブルでは、こうした高大接続問題に関する各国の特徴を論じながら、そこから導き出される課題について検討していきたい。

国際教育開発の倫理を問う

—「EDU-Port ニッポン」調査研究からの示唆—

企画者：高山 敬太（京都大学）

発表者：高山 敬太（京都大学）、興津 妙子（大妻女子大学）

米原 あき（東洋大学）、橋本 憲幸（山梨県立大学）

日本型教育の海外展開の促進を目的に2016年に開始された「EDU-Port ニッポン」。1. 日本の教育の国際化、2. 親日層の拡大、3. 日本の経済への貢献という三つの事業目標を掲げ、文部科学省が中心となり官民連携型プラットフォームを通じて、これまでに様々な事業体の海外教育活動を支援してきた。同省が外務省と経済産業省と連携し、日本型教育を積極的に海外に推進しようとする試みは前例がなく、とりわけ民間企業の海外展開活動を同省が支援することは前代未聞であった。この意味では、EDU-Port ニッポンは日本の教育行政・国際教育協力における歴史的な出来事であったと言える。

事実、EDU-Port ニッポンに対しては、国内の教育研究者から様々な反応が示された。とりわけ、2019年に教育学研究（86巻4号）に掲載された「日本型教育の海外展開を問う」という特集号において、この多様な反応を垣間見ることが出来る。この中で最も批判的な論考を展開したのが、教育開発における倫理（規範性）を研究している橋本（2019）であった。同氏は、文化帝国主義や新自由主義批判を敷衍した国際教育開発の規範性という視点から、当事業には、日本型教育を海外に展開することへの逡巡や躊躇がないことを指摘する。自己（日本型）の同一化と肥大化へと邁進する可能性が否定できないゆえ、同事業が帝国主義的・新自由主義的性格を帯びていることに警告を鳴らす。一方、杉村（2019）は橋本とは異なる見解を提示した。同氏は、まずEDU-Port ニッポンにおいて輸出的なものと協働的なものの両者が存在していることを確認し、後者において、日本側と対象国が相互に学び合えるような、より水平的な協働関係の可能性を見出している。一方、日下部（2019）は、過去に広島大学教育国際開発協力研究センター（CICE）が実施した4つの協力事業を並置比較することで、日本型教育が海外において有効に実施されるための前提条件の特定を試みている。同氏は、日本型教育の暗黙の前提として教育を尊重する文化的基層があると論じ、こうした基盤が揃わない国においては日本型教育の「現地化」が必要になると指摘する。同氏の現地化論は、EDU-Port ニッポンや他の国際教育開発事業にも示唆的なものとして解釈できるが、橋本（2019）が指摘する自己の一元化や肥大化の倫理的諸問題への意識という点においては、極めて限定的である。

こうして展開されてきたEDU-Port ニッポンに関する諸議論だが、実証的な検討が不十分であることが問題として存在してきた。この欠如を補うべく実施されたのが2020年に文部科学省から委託を受けた「日本型教育の海外展開の在り方に関する調査研究事業」であった。京都大学を中心に行われた同調査研究においては、前出の橋本、杉村、日下部らが提示する鍵概念（躊躇、逡巡、一元化、肥大化、協働、現地化）を批判的に検討しつつ、EDU-Port ニッポンの分析に活用している。当ラウンドテーブルでは、この報告書を執筆した3名（高山、興津、米原）による研究結果の発表の後、EDU-Port に対して批判的な議論を展開した橋本による返答を予定している。その後、参加者を含めた議論の時間を設けることで、EDU-Port ニッポンの限界と可能性、そしてより大きな問題意識としては、国際教育開発における規範性と比較教育研究のあり方に関して議論する機会を提供する。

SDGs時代の教育普遍化と格差

企画者：澤村 信英（大阪大学）

司会者：小川 未空（大阪大学）

発表者：日下部 達哉（広島大学）、坂上 勝基（早稲田大学）、坂口 真康（兵庫教育大学）
清水 貴夫（京都精華大学）、牧 貴愛（広島大学）

アフリカなどの発展途上国においては、初等・中等教育の普遍化が進展する一方で、様々な格差が生じている。SDGs（持続可能な開発目標）の第4目標は、「すべての人々に包摂的かつ公正な質の高い教育の提供」を目指し、さらに初等・中等教育においては「適切かつ効果的な学習成果をもたらす」ことを条件としている。教育の普遍化が進む中で格差は縮小せず逆に拡大しているのではないか？ 普遍化により生み出される格差にはこれまで想定しなかったものがあるのではないか？ 普遍化と格差拡大が同時進行することは教育の質や学習成果にいかに関係するのか？ さらに、新型コロナウイルス感染症拡大という局面において、あらたな分析視角も必要かもしれない。本ラウンドテーブルでは、そのような諸点に着目し、議論を進めていく。

若手研究者交流会

2021年6月25日（金） 20：10－21：40

「第 57 回日本比較教育学会大会 オンライン若手研究者交流会」 企画書

1. 「第 57 回日本比較教育学会大会 オンライン若手研究者交流会」 概要

第 57 回日本比較教育学会大会では、学生会員有志の企画として「オンライン若手研究者交流会：飲み物片手に語らおう！」を開催します。院生のみなさん、若手研究者のみなさんにとって、研究や実践上のネットワークづくりをするとともに、悩みを共有し解決の糸口を見つける場になればと考えています。会の始まりは、前プログラム「ラウンドテーブル：比較教育学を学ぶ人のためのアカデミック・キャリアシリーズ III」（研究委員会企画）でご登壇いただいた先生方にもご参加いただけますので、そこで聞けなかったお話をより気軽にうかがうことも可能です。研究方法や倫理審査など研究上の相談をしたい方、フィールド調査に行けず海外禁断症状に陥っている方、ただただ飲みたい方など、どなたでも大歓迎です。奮ってご参加ください。

【日 時】 6 月 25 日（金） 20:10-21:40

【場 所（開催方法）】

Zoom によるオンライン開催を予定しております。パソコン、スマートフォンなどのタブレット端末より参加可能ですが、各自設定等をご確認ください。コンピュータの操作、インターネット接続、映像・音声等についての個別のトラブルの対応はできませんのであらかじめご了承ください。

【プログラム】

- 20:10-20:15 チェックイン・開会の挨拶・流れの説明
(ラウンドテーブルの URL を継続して利用します)
- 20:15-20:35 ラウンドテーブルスピーカーを囲んで
- 20:35-20:40 ブレイクアウトセッションの説明・振り分け
- 20:40-21:05 ブレイクアウトセッションによる交流①
- 21:05-21:30 ブレイクアウトセッションによる交流②
- 21:30-21:35 全体での共有
- 21:35-21:40 閉会挨拶・アンケート記入

【定員】 30 名（先着順）

2. 参加申し込み・参加方法

参加人数見込みを把握するために、参加を希望される方は以下の Google フォームリンク先にアクセスし、事前登録をお願いいたします。6 月 15 日（火）正午までに事前登録をお済ませください。

⇒⇒

<https://docs.google.com/forms/d/e/1FAIpQLSfYNT3iagxMUESD17oVscu0qV4HqvvFp6yRn9ciSOGhM0s7tw/viewform?vc=0&c=0&w=1&flr=0&gxids=7628>

主 催：研究委員会、学生会員有志

お問合せ：学生会員有志

代表：木村 祐介（広島大学大学院、kurobeko.nihiki@gmail.com）

須藤 玲（東京大学大学院、r-sudo-g2w@eagle.sophia.ac.jp）

西川 侑里（山口大学大学院、yyyk_happy25@yahoo.co.jp）

〈企画・運営（五十音順）〉

学生会員有志

木村 祐介（広島大学大学院）

陣田 内美（名古屋大学大学院）

須藤 玲（東京大学大学院）

田島 夕貴（東京大学大学院）

仲里 ローレン（早稲田大学大学院）

西川 侑里（山口大学大学院）

守谷 富士彦（広島大学大学院）

吉野 華恵（東京大学大学院）

自由研究発表 I

2021年6月26日(土) 9:00-11:30

自由研究発表 I-1 6月26日(土) 9:00-11:00

東南アジア地域(1)

司会: 平田 利文 (大分大学)

- 9:00 - 9:30 タイの「教育総会」(samatcha kansueksa) モデルにみる地方教育ガバナンスの構想
橋本 拓夢 (広島大学大学院・日本学術振興会特別研究員)
- 9:30 - 10:00 タイにおける教師教育者の人事制度 —公募文書を手がかりとして—
牧 貴愛 (広島大学)
- 10:00 - 10:30 タイにおける国境警備隊学校の歴史的な意義に関する考察
森下 稔 (東京海洋大学)
- 10:30 - 11:00 ラオス北部と中国国境地帯における教育観の変化に関する研究
—「一帯一路」構想が及ぼす影響を中心に—
乾 美紀 (兵庫県立大学)
-

自由研究発表 I-2 6月26日(土) 9:00-11:00

中近東地域

司会: 小川 啓一 (神戸大学)

- 9:00 - 9:30 イスラエル教育 NGO による対話活動の事例研究
飛田 麻也香 (広島大学大学院)
- 9:30 - 10:00 20世紀後半エジプトにおけるイスラーム教育制度改革
—アズハル系の外国人学校とクルアーン読誦学校の再編に注目して—
内田 直義 (名古屋大学大学院)
- 10:00 - 10:30 難民教育における包摂と排除 —ヨルダンに暮らすシリア難民の視点から—
ガラウインジ 山本 香 (上智大学)
- 10:30 - 11:00 複合緊急事態下における教育の継続 —オンライン教育の可能性と課題—
○小松 太郎 (上智大学)
○松崎 紗代 (特定非営利活動法人ワールド・ビジョン・ジャパン)
○岩間 縁 (特定非営利活動法人ワールド・ビジョン・ジャパン)

自由研究発表 I-3 6月26日(土) 9:00-11:30

アフリカ地域(1)

司会: 山田 肖子 (名古屋大学)

- 9:00 - 9:30 ルワンダにおける歴史教育とエスニック・アイデンティティ
—初等教育段階歴史的分野の教科書に焦点をあてて—
田島 夕貴 (東京大学)
- 9:30 - 10:00 ケニアにおける教育の経済的便益の変化について
—2005年と2015年の教育収益率の比較より—
島田 健太郎 (開志専門職大学)
- 10:00 - 10:30 ケニアのスラムで運営される私立初等学校の成り立ち
—なぜ教師は厳しい状況のもとでも働き続けるのだろうか—
澤村 信英 (大阪大学)
- 10:30 - 11:00 モザンビーク大学生の援助要請志向
隅田 姿 (広島修道大学)
- 11:00 - 11:30 ガーナにおける持続可能な開発のための教育
山崎 瑛莉 (上智大学)
-

自由研究発表 I-4 6月26日(土) 9:00-11:00

オセアニア地域

司会: 杉本 和弘 (東北大学)

- 9:00 - 9:30 グローバル時代の復言語・復文化教育
—オーストラリアのコミュニティランゲージ教育政策から得られる教育的示唆—
奥村 恵子 (早稲田大学大学院)
- 9:30 - 10:00 オーストラリアの教育政策における保護者の位置付け
青木 麻衣子 (北海道大学)
- 10:00 - 10:30 オーストラリア国家教育指針の歴史的展開
—ホバート宣言からアリススプリング宣言への道程—
伊井 義人 (藤女子大学)
- 10:30 - 11:00 大洋州島嶼国における中等教育修了資格試験のローカル化とその後の展開
奥田 久春 (三重大学)

自由研究発表 I-7 6月26日(土) 9:00-11:30

ジェンダーとマイノリティ

司会：丸山 英樹（上智大学）

- 9:00 - 9:30 モルディブ共和国における青年期ムスリム女性の「ムスリムネス」の保守化に関する一考察 — 体育・運動競技に対する意思決定に着目して —
太田 洋舟（広島大学大学院）
- 9:30 - 10:00 カンボジア古典舞踊ロバム・ボランの継承におけるわざの習得
— 王立芸術大学とディアスポラ民間舞踊の比較から —
羽谷 沙織（立命館大学）
- 10:00 - 10:30 途上国における難民を包摂する初等教育政策下の児童の学力の決定要因
— ウガンダ北部を事例として —
坂上 勝基（早稲田大学）
- 10:30 - 11:00 チェコおよび旧社会主義国における女性の文化とライフコース
石倉 瑞恵（石川県立大学）
- 11:00 - 11:30 マレーシアの公立大学における「リバーズ・ジェンダー・ギャップ」
— 進む女性の高学歴化、その光と影 —
鴨川 明子（山梨大学）
-

自由研究発表 I-8 6月26日(土) 9:00-11:30

シティズンシップ

司会：渋谷 恵（明治学院大学）

- 9:00 - 9:30 気候変動教育に関する全国自治体調査
— 国連気候変動枠組条約（UNFCCC）からの考察 —
○神田 和可子（聖心女子大学大学院）、○永田佳之（聖心女子大学）
- 9:30 - 10:00 マラウイ共和国の中等教育学校「社会」の教科書にみるシティズンシップの二面性
— 「従順さ」と「相互依存性」に着目して —
吉野 華恵（東京大学大学院）
- 10:00 - 10:30 Does current Global Citizenship Education entail effective response to global risks?
NGUYEN THANH VAN（上智大学大学院）
- 10:30 - 11:00 インドネシアにおけるシティズンシップ教育
— 高校生の社会貢献意識の地域間比較 —
中矢 礼美（広島大学）
- 11:00 - 11:30 ベトナム社会主義共和国の市民教育の課題
— 「近隣国」との関係性及び「境界」を意識しながら —
石村 雅雄（鳴門教育大学）

自由研究発表 II

2021年6月26日(土) 12:30-15:00

自由研究発表 II-1 6月26日(土) 12:30-15:00

東アジア地域(1)

司会: 松本 麻人 (名古屋大学)

- 12:30 - 13:00 日本の大学入学者選抜における「多面的・総合的評価」に関する政策動向
—求められる資質・能力と評価方法に焦点を当てて—
賈 立男 (北海道大学大学院)
- 13:00 - 13:30 日中韓における国際教育協力の成果・課題・活動の比較検討
—留学生受入事業と技術協力を中心に—
唐 子涵 (鳴門教育大学)
- 13:30 - 14:00 韓国・京畿道教育庁における「平和・統一教育」への試み
—「平和時代を開く統一市民」教科書を中心に—
朴 貞蘭 (大分県立芸術文化短期大学)
- 14:00 - 14:30 韓国における学校を基盤とした「教育福祉」事業の制度的特徴について
—教師の積極的な参加を目指した取り組みに焦点を当てて—
金 美連 (熊本学園大学)
- 14:30 - 15:00 公式文献調査から探る「金正恩時代」の教育動向分析
—COVID-19下で北朝鮮の教育はどのような“進化”を続けているか—
斎藤 真 (新潟こども医療専門学校)
-

自由研究発表 II-2 6月26日(土) 12:30-15:00

東南アジア地域(2)

司会: 鴨川 明子 (山梨大学)

- 12:30 - 13:00 Cambodian students' perceptions of private tutoring: A case of teachers as tutors
SOEUNG SOPHA (広島大学)
- 13:00 - 13:30 独立後カンボジアにおける教授法の脱植民地化の試み
—チェット・チェムの指導書に着目して—
荻巣 崇世 (上智大学)
- 13:30 - 14:00 Equitable Education Opportunity in Secondary Education in Timor-Leste
田坂 尚子 (広島大学)
- 14:00 - 14:30 一党独裁体制下の教育におけるアカウンタビリティ
—猫の首に鈴をつけることができるのは誰か?—
前田 美子 (大阪女学院大学)
- 14:30 - 15:00 ミャンマー連邦共和国基礎教育学校の学習環境 —Study on the Learning Environment in Basic Education Schools in the Republic of the Union of Myanmar—
牟田 博光 (国際開発センター)

自由研究発表 II-3 6月26日(土) 12:30-14:30

ヨーロッパ地域(1)

司会: 谷川 至孝 (京都女子大学)

- 12:30 - 13:00 EU 離脱後 (Post-Brexit) の英国の教育に関する一考察
—国際教育政策を中心に—
鶴田 洋子 (明治学院大学)
- 13:00 - 13:30 イギリスにおける高大接続改革の動向
—Post Qualification Admission (PQA) 改革の議論に着目して—
花井 渉 (独立行政法人大学入試センター)
- 13:30 - 14:00 バカロレア試験で測られる能力と高等教育との連続性 —学士課程における
「各学問領域で期待される要素の全国共通枠組み」の検討から—
田川 千尋 (大阪大学)
- 14:00 - 14:30 コロナ禍のイングランドにおける追加言語としての英語 (EAL) 学習者への支援
—リーズ市の事例から—
○小山 晶子 (東海大学)、○菊地 かおり (筑波大学)
-

自由研究発表 II-4 6月26日(土) 12:30-15:00

アフリカ地域(2)

司会: 西村 幹子 (国際基督教大学)

- 12:30 - 13:00 Sub-Saharan Immigrant Students in Morocco, and the Challenges to Equitable
Access to Education
OUHEMMOU MOHAMMED (筑波大学)
- 13:00 - 13:30 Study on the possibility to restructure the contents and improve the pedagogical
practices in measurement and in the first two grades of elementary school in
Senegal, in a Competency Based Approach Context
FAYE ABDOULAYE (鳴門教育大学大学院)
- 13:30 - 14:00 The assessment of learnings in mathematics through the Competency-Based
Approach (CBA) in Senegal: A trial improvement of the evaluation of the
competency in harmonization with the formative assessment at elementary
level
FAYE CHEIKH (鳴門教育大学大学院)
- 14:00 - 14:30 タンザニアにおける初等教員の解釈から解明する学習者中心型教授法の海外展開
坂田 のぞみ (広島大学)
- 14:30 - 15:00 戦間期(1918年~1939年)の仏領アルジェリアにおけるムスリム女子教育
—原住民教員組合の機関紙(La Voix des Humbles)の分析から—
SOTTILE Marco (椋山女学園大学)

自由研究発表 II-5 6月26日(土) 12:30-15:00

中南米地域

司会：鈴木 賀映子 (帝京大学)

- 12:30 - 13:00 Diagnostic analysis on 6th grade primary school students' mathematical competency in El Salvador to develop research instruments for measuring teachers' pedagogical contents knowledge
Argueta Aranda Ana Ester (鳴門教育大学)
- 13:00 - 13:30 Mathematics teachers' abilities and skills in Pedagogical Content Knowledge and Mathematical Knowledge at elementary school level in El Salvador
Mejia Ramos Antonio Francisco (鳴門教育大学大学院)
- 13:30 - 14:00 The Possibility of Utilizing Inquiry-Based Learning to improve Critical Thinking and Problem-Solving Skills in Mathematics Education in Jamaica
SUCKOO SAMANTHA SHEENA (鳴門教育大学)
- 14:00 - 14:30 チリにおけるオンライン入学調整制度 (SAE) の効果と課題
工藤 瞳 (早稲田大学)
- 14:30 - 15:00 ブラジルの「倫理とシティズンシップ教育」における「総合的な学習の時間」についての一考察
山口 アンナ真美 (北海道教育大学)
-

自由研究発表 II-6 6月26日(土) 12:30-14:30

高等教育 (2)

司会：野田 文香 (大学改革支援・学位授与機構)

- 12:30 - 13:00 University teachers' perceptions of e-learning in higher education institutions: a case of public universities in Laos
○Phetsiriseng Chansouda (広島大学)
SISAVATH SOUBIN (広島大学大学院)
- 13:00 - 13:30 Study in Malaysia for Degree Acquisition of Japanese Students: Considering the Value beyond Area Studies
金子 聖子 (東洋大学)
- 13:30 - 14:00 A Cross-National Analysis of Initiatives and Policies in International Research Collaborations: Qualitative Comparative Analysis
鎌田 武仁 (上智大学)
- 14:00 - 14:30 International Collaboration for Quality Assurance in Higher Education: Japan's Experience and Global Dynamism
米澤 彰純 (東北大学)

自由研究発表 II-7 6月26日(土) 12:30-14:30

国際教育・教育交流(1)

司会: 鈴木 康郎 (高知県立大学)

- 12:30 - 13:00 日本の民間企業・団体による教育輸出 —学習文化に係る物語の活用—
朝倉 隆道 (一橋大学大学院)
- 13:00 - 13:30 コロナ禍による留学生の学びと将来計画への影響
—日本と米国の比較から—
佐藤 由利子 (東京工業大学)
- 13:30 - 14:00 コロナ禍におけるタイの外国人留学生受入れ状況に関する調査研究
○カンピラパーブ スネート (名古屋大学)
○岸田 由美 (金沢大学)
- 14:00 - 14:30 北欧からの交換留学生を対象としたグローバル教育インターンシップの開発
—成果と課題—
○原 和久 (都留文科大学)、市川 桂 (東京海洋大学)
-

自由研究発表 II-8 6月26日(土) 12:30-14:30

研究方法

司会: 杉本 均 (京都大学)

- 12:30 - 13:00 比較教育学前史の視点からみるプラトン『法律』
—特にエジプトへの言及箇所に着目して—
藤田 舜 (元名古屋大学大学院)
- 13:00 - 13:30 比較教育学における地域研究再考
—「教育借用」から「教育の多様性解明」へ—
大場 麻代 (帝京大学)
- 13:30 - 14:00 コロナ禍において外国教育研究を行う大学院生に対する研究指導上の課題
○近田 政博 (神戸大学)、○山内 乾史 (神戸大学)
小川 啓一 (神戸大学)
- 14:00 - 14:30 在日モンゴル人留学生の留学の意義 —博士課程経験者の経験を通じて—
Myagmar Ariuntuya (早稲田大学)

シンポジウム

2021年6月26日（土） 15：10－17：25

新時代の子どもの学びの在り方を国際的に考える —求められる資質能力と学習のアプローチをめぐって—

<趣旨説明>

今日の社会は、「VUCA」(不安定、不確実、複雑、曖昧)という言葉に象徴されている。様々な変化は、私たちの周囲に見いだせるが、例えば、情報技術の革新は著しく、人工知能(AI)の発展も話題になっている。一方で、グローバル化が進展するとともに、貧困問題、環境問題、人々の共生をめぐる諸問題などが存在している。社会情勢の変化に対応した教育改革も期待されており、各国では様々な取り組みが進められている。

初等中等教育に焦点を当てて考える時、子どもたちの学びのあり方はどのように構想され得るのだろうか。OECDのEducation 2030プロジェクトでは「エージェンシー」がキーワードとして打ち出され、日本では中央教育審議会答申(2021年1月26日)において「個別最適な学び」と「協働的な学び」が掲げられた。周知のように、GIGAスクール構想は推進されており、公立学校にWi-Fi環境とタブレットが整備され始めている。このような観点は、今後の政策と実践において問われることになる。

こうした社会背景、政策動向を踏まえ、本シンポジウムでは、新時代の子どもの学びの在り方をめぐって、諸外国との比較研究から検討し、翻って日本の子どもの学びの未来を考えてみたい。特に、本シンポジウムでは、児童生徒の豊かな学びを日本で成立する観点から、今後どのような展望を描けるのかについて、比較教育学の立場から論究することを試みる。

本シンポジウムでは、特色ある教育改革を進めているフランス、フィンランド、シンガポールを対象として、各国を専門に研究されている会員に報告をいただく。さらに、日米のカリキュラムと教育方法に詳しい指定討論者を招待し、国際的動向をふまえつつ、日本の課題と今後の在り方に関する指定討論をいただく。そのうえで、フロアからの質疑をもとに、全体討議を行いたい。

本シンポジウムの柱として次の問いを設定した。第一に、各国でどのような資質能力の育成が目指されているか(教育目標)。第二に、各国の学びにはどのような特徴と課題があるのか(方法)。カリキュラム、教育方法、ICT活用などの関連する政策や実践はどのようになっており、そこにはどのような学習の基本原則や思想があるのか。前述の「個別最適な学び」「協働的な学び」などの観点に関わって、どのような学習のアプローチがとられているか。第二の問いは、本シンポジウムの基軸に位置づけられる。第三に、各国の動向は、どのような文脈、文化、価値観に基づいているのか(教育の土台)。コロナ禍によって、促進されたアプローチや政策はあるのか。

このような問いに基づいて、主題に関する充実した論究がなされることを願っている。

皆様のご参加をお待ちしております。

<シンポジスト>

フランス 細尾萌子(立命館大学)
フィンランド 渡邊あや(津田塾大学)
シンガポール 池田充裕(山梨県立大学)
指定討論者 澤田稔(上智大学)

<司会>

佐藤博志(筑波大学)
本所恵(金沢大学)

自由研究発表 III

2021年6月27日（日） 9:00—11:30

自由研究発表 III-1 6月27日(日) 9:00-11:30

東アジア地域(2)

司会: 一見 真理子(国立教育政策研究所)

- 9:00 - 9:30 台湾の教科書からみる「台湾人」像
石井 佳奈子(広島大学大学院)
- 9:30 - 10:00 高等教育における学際的学位プログラムの日台比較
廖 于晴(大阪大谷大学)
- 10:00 - 10:30 コロナ禍におけるモンゴルの学校教育 —機会均等を中心に—
ENKHBAYAR SOLOGO(東京外国語大学大学院)
- 10:30 - 11:00 The Need for Continuous Professional Development:
Voices from administrative department and early childhood, primary and
secondary education in Yunnan
Deng Yan(早稲田大学大学院)
- 11:00 - 11:30 文理融合の大学入試改革と女性のSTEM人材育成
—上海の大学の事例を中心として—
大濱 慶子(神戸学院大学)
-

自由研究発表 III-2 6月27日(日) 9:00-11:30

東南アジア地域(3)

司会: 北村 友人(東京大学)

- 9:00 - 9:30 Just a degree is not enough: How do Lao graduates returning from study
abroad negotiate employability in the home country?
SISAVATH SOUBIN(広島大学大学院)
- 9:30 - 10:00 Analysis of Teacher Deployment and In-Service Training in Early Childhood
Education in Lao PDR
○小川 啓一(神戸大学)、○野口 雅哉(神戸大学大学院)
- 10:00 - 10:30 ベトナムにおける美術教育の立ち位置の解明
—初等教科書分析を中心に—
木村 祐介(広島大学)
- 10:30 - 11:30 ベトナム幼・小教育課程における教員養成の特質
—保育・教育原理の転換という視点から—
○門松 愛(名古屋女子大学)、○関口 洋平(畿央大学)

自由研究発表 III-3 6月27日(日) 9:00-11:00

ヨーロッパ地域(2)

司会: 是永 かな子 (高知大学)

- 9:00 - 9:30 スウェーデンの高校における早期離学予防
—イントロダクション・プログラムに焦点を当てて—
本所 恵 (金沢大学)
- 9:30 - 10:00 学生が作成する評価報告書は内部質保証にどのような影響を与えているか
—スウェーデンとイギリスの「学生意見書」を参考に—
○田中 正弘 (筑波大学)、○武 寛子 (神戸大学)
- 10:00 - 10:30 デンマークにおける初期国民高等学校のナショナリズム
—19世紀における北欧の近代化と民族主義の観点から—
田淵 宗孝 (羽衣国際大学)
- 10:30 - 11:00 ロシア型 STREAM 教育の構造と周辺諸国への波及に関する研究
—ソチ・シリウス教育センターの事例を中心に—
○澤野 由紀子 (聖心女子大学)、Tastanbekova Kuanysh (筑波大学)
木之下 健一 (独立行政法人 大学改革支援学位授与機構)
Misochko Grigory (京都外国語大学)
-

自由研究発表 III-4 6月27日(日) 9:00-11:00

高等教育(3)

司会: 南部 広孝 (京都大学)

- 9:00 - 9:30 中国における本科レベルの高等職業教育の提供に関する一考察
—機関類型の相違に着目して—
張 潔麗 (京都大学大学院)
- 9:30 - 10:00 モンゴルの大学における民主主義的な管理運営
ジャルガルサイハン ジャルガルマー (京都大学大学院)
- 10:00 - 10:30 マレーシアの大学から見る高等教育のグローバル化と知識の生産・流通の
諸問題 —国際イスラーム大学の事例にみるジレンマ—
久志本 裕子 (上智大学)
- 10:30 - 11:00 マレーシア高等教育における私立セクターの発展
—私立高等教育機関法制定 25年を経た私立高等教育の到達と課題—
我妻 鉄也 (千葉大学)

国際教育・教育交流(2)

司会: 花井 渉(大学入試センター)

- 9:00 - 9:30 国際バカロレア(IB)初等教育プログラム(PYP)としての教育方法論の検討
菅井 篤(東京学芸大学大学院連合学校教育学研究科)
- 9:30 - 10:00 日本の高校における「概念学習」の特徴と受容実態
—国際バカロレアDP「言語A」の指導に着目して—
田中 佳太(筑波大学大学院)
- 10:00 - 10:30 国際バカロレア(IB)修了生の進学動機に関する研究
—日本にルーツをもつ学生に着目して—
○江幡 知佳(立教大学/筑波大学大学院)
菊地 かおり(筑波大学)
- 10:30 - 11:00 課外活動における安全確保 —野球競技における国際事例から—
江原 昭博(関西学院大学)
- 11:00 - 11:30 VUCA社会における防災教育の形成と課題
—日本とフィリピンにおける意識調査の比較考察を中心に—
長濱 博文(桐蔭横浜大学)
-

多文化教育(1)

司会: 山崎 瑛莉(上智大学)

- 9:00 - 9:30 在日中国籍モンゴル人2世の小学校入学をめぐる親の葛藤と不安
ハスゲレル(東京都立大学)
- 9:30 - 10:00 タイの小学校における価値多様化に対応した道德教育に関する予備的考察
鈴木 康郎(高知県立大学)
- 10:00 - 10:30 文化的多様性を前提とし活かした共通カリキュラムの検討
—カナダ・オンタリオ州を例に—
児玉 奈々(滋賀大学)
- 10:30 - 11:00 A Discussion of Education Corresponding to "Globalisation" in the Republic
of South Africa: A Case Study of Optionally Selected Life Orientation
Textbooks of Senior High School Level
坂口 真康(兵庫教育大学)

自由研究発表 III-7 6月27日(日) 9:00-10:30

開発と教育(1)

司会: 黒田 一雄(早稲田大学)

- 9:00 - 9:30 省察的学びを促す教員研修に関する考察
—オンライン研修の試行による模索—
酒匂 まどか(鳴門教育大学大学院)
- 9:30 - 10:00 スポーツを通じた女性のエンパワーメント
—ノンフォーマル教育からみたその可能性—
落合 ゆき(鳴門教育大学)
- 10:00 - 10:30 Effects of Recognition of Prior Learning (RPL) on Job Market Outcomes:
Impact Evaluation in Bangladesh
中田 志郎(World Bank)
-

自由研究発表 III-8 6月27日(日) 9:00-11:30

教育の機会

司会: 青木 麻衣子(北海道大学)

- 9:00 - 9:30 UNESCO 政策文書の母語の位置づけの変遷に関する考察
—教育における母語の中核的機能に着目して—
須藤 玲(東京大学大学院)
- 9:30 - 10:00 キルギス共和国とタジキスタンの言語教育政策における母語教育保障
—法規定とカリキュラムの比較—
Tastanbekova Kuanysh(筑波大学)
- 10:00 - 10:30 香港の非中華系(新)移民に対する教育プログラム
—言語学習の優先順位に関する—考察—
大和 洋子(星槎大学)
- 10:30 - 11:00 スペインの学校教育制度における外国人生徒
—教育機会の平等に焦点をあてて—
有江 ディアナ((公財)世界人権問題研究センター)
- 11:00 - 11:30 生きにくい時代における「深いESD」による学習
丸山 英樹(上智大学)

自由研究発表 IV

2021年6月27日(日) 12:30-15:00

自由研究発表 IV-1 6月27日(日) 12:30-15:00

東アジア地域(3)

司会: 朴 炫貞 (成城大学)

- 12:30 - 13:00 大規模オンライン高等教育への移行と教育効果
—名古屋大学を事例とした教員の成績付与と学生の自己認識の差に関する分析—
内海 悠二 (名古屋大学)
- 13:00 - 13:30 高等教育におけるサービス・ラーニングの日米比較
—シラバスの検討を中心に—
間篠 剛留 (日本大学)
- 13:30 - 14:00 日本・韓国・台湾の地方地域大学の国際化
—地方創生と大学の役割に関する政策分析からの考察—
○渡部 由紀 (東北大学)、○劉 靖 (東北大学)
○塚田 亜弥子 (東京大学)
- 14:00 - 14:30 台湾の博士号取得者の現状と課題 —全国調査のデータに基づく分析—
可部 繁三郎 (日本経済新聞社/元日本経済研究センター)
- 14:30 - 15:00 中国における高等教育改革に関する研究
—キャリア教育を中心として—
神崎 明坤 (西南女学院大学)
-

自由研究発表 IV-2 6月27日(日) 12:30-15:00

東南アジア地域(4)

司会: 久志本 裕子 (上智大学)

- 12:30 - 13:00 Edu-community in religious inherency: Community participation in religious education equality in Indonesia
Utami Pratiwi Tri (広島大学大学院)
- 13:00 - 13:30 Demand sides' perceived views on required IT professionals' skills: an analysis for HEIs' reform in Indonesia
Dewi Rahmatika (広島大学)
- 13:30 - 14:00 インドネシアの高等教育機関におけるイスラーム学習の展開
—1960年代後半以降の社会・政治状況との関わりに着目して—
中田 有紀 (東洋大学)
- 14:00 - 14:30 インドネシアにおけるイスラーム教育改革
—プサントレン法(2019)をめぐる動きに着目して—
服部 美奈 (名古屋大学)
- 14:30 - 15:00 インドネシアのイスラーム系私立学校"Integrated Islamic School"におけるムスリム個人の育成 —メンタリング制が果たす役割に着目して—
AZMI MUKHLISAH (名古屋大学)

自由研究発表 IV-3 6月27日(日) 12:30-15:00

ヨーロッパ地域(3)

司会: 柴田 政子 (筑波大学)

- 12:30 - 13:00 ドイツにおけるコンピテンシー志向の通信簿評価の試み
ト部 匡司 (広島市立大学)
- 13:00 - 13:30 ドイツの教育課程にみる非認知能力の育成
—ノルトライン・ヴェストファーレン州とハンブルク州の事例比較を中心に—
濱谷 佳奈 (大阪樟蔭女子大学)
- 13:30 - 14:00 ドイツにおけるエビデンスに基づく教育政策の検証
—連邦及び州教育報告書の分析から—
坂野 慎二 (玉川大学)
- 14:00 - 14:30 ポルトガルにおけるセカンド・チャンス教育をめぐる議論と現況 (2020年)
二井 紀美子 (愛知教育大学)
- 14:30 - 15:00 マルタ共和国における高等教育のグローバル化対応と日本との関係について
水谷 耕平 (日本工業大学)
-

自由研究発表 IV-4 6月27日(日) 12:30-15:00

北アメリカ地域

司会: 藤田 晃之 (筑波大学)

- 12:30 - 13:00 カナダブリティッシュ・コロンビア州における多様な学びの接続を可能にする
教育制度研究 —学びと学び、学びと仕事の接続に着目して—
熊谷 朋子 (宇都宮大学)
- 13:00 - 13:30 米国の学力格差是正を目指した連邦教育政策の限界
—多角的視点からの考察—
吉良 直 (東洋大学)
- 13:30 - 14:00 米国における社会情緒的な能力の育成と学校改善
—学校風土研究に焦点をあてて—
黒田 友紀 (日本大学)
- 14:00 - 14:30 コロナ禍における食育とコミュニティ
—アメリカ合衆国の問題意識を事例として—
大倉 健太郎 (武庫川女子大学)
- 14:30 - 15:00 国境地域の教師を取り巻く環境と求められる資質能力
—アメリカ-メキシコ国境を事例に—
○鈴木 賀映子 (帝京大学)、○市川 桂 (東京海洋大学)

自由研究発表 IV-5 6月27日(日) 12:30-15:00

幼児教育

司会：三輪 千明（広島大学）

- 12:30 - 13:00 Exploring Factors Promoting Parent's Engagement in Early Childhood Education: The Case of Cambodia
美並 立人（神戸大学大学院）
- 13:00 - 13:30 An Analysis of Myanmar's Policies for Early Childhood Care and Development based on the SABER-ECD Framework
○Tin Nu Nu Wai（広島大学大学院）
三輪 千明（広島大学）
- 13:30 - 14:00 Home Learning Environment for Early Childhood Development Outcomes in Bangladesh
王 可心（神戸大学大学院）
- 14:00 - 14:30 オランダの「保育の質」測定にみる教育とケアの統合
—教育的不利益の軽減・予防政策の中の教育プログラムに着目して—
福田 紗耶香（九州大学大学院）
- 14:30 - 15:00 グローバル化を意識したシンガポール幼児教育改革の理想と現実
李 霞（滋賀短期大学）
-

自由研究発表 IV-6 6月27日(日) 12:30-14:30

高等教育（4）

司会：服部 憲児（京都大学）

- 12:30 - 13:00 日本・英国の大学における教育プログラム評価に関する比較考察
○林 透（金沢大学）、○大関 智史（旭川医科大学）
- 13:00 - 13:30 独仏日のトランスナショナル高等教育のベトナムにおける展開
上別府 隆男（福山市立大学）
- 13:30 - 14:00 大学マネジメントにおける国際担当上級管理職に関する研究
—黎明期の日本と専門職化する米国との質的比較—
○米澤 由香子（東北大学）、○太田 浩（一橋大学）
- 14:00 - 14:30 UNESCO 東京規約と NIC（国内情報センター）の発展
—多様な資格承認をめぐる課題—
○堀田 泰司（大学改革支援・学位授与機構）
○野田 文香（大学改革支援・学位授与機構）

課題研究

2021年6月27日（日） 15：10－17：25

幼保小接続の国際比較

司会：坂本 真由美（中村学園大学）

パネリスト：

一見 真理子（国立教育政策研究所）：アジア、OECD の ECEC（Early Child Education and Care）

赤星 まゆみ（西九州大学）：フランス

中田 麗子（東京大学）：北欧

門松 愛（名古屋女子大学）：バングラデシュ

<趣旨説明>

日本の就学前の乳幼児教育は、生涯にわたる人間形成・人格形成の基礎を培うことが目的とされており、小学校入学するまでの接続だけでなく、その後の人生にも影響を与える重要な基礎段階と位置付けられている。しかし、このつながりという意識を子ども・保育者・教員・保護者・社会はどこに見出しているのだろうか。また、子ども達は今、新型コロナウイルスの感染禍、デジタルによる遠隔教育、災害と貧困と虐待の増加など、新たなそして更に過酷な経験を積み始めている。大人は、子ども達を取り巻く環境をもう一度捉えなおし、子ども達が人間として、平等に公平に人権と最善の利益が保障されるような保育と教育の接続を目指していかなければならない。そこには、家庭における保育も再度視点に入れる必要がある。

経済協力開発機構（OECD）は2001年より ECEC（Early Child Education and Care）の政策理念とし **Starting Strong**（人生の始まりこそ力強く）を一貫して報告し続けている。また、OECD のシュライヒャー氏は、PISA（OECD 生徒の学習到達度調査）から21世紀の学校教育システムを分析しているが、そこに就学前教育はいかに接続できるのか。保育とは教育であり、福祉でもある。「教育における福祉とは」「福祉と教育の接続とは」というテーマはもはや全世界共通である。それは **SDGs**（Sustainable Development Goals：持続可能な開発目標）の早期達成に向けての不可欠のテーマでもある。

そこで本課題研究では、まず、OECD の ECEC（Early Child Education and Care）を通した目指すべき乳幼児の教育とケアを再確認し、北欧、フランス、バングラデシュ、途上国の就学前教育無償化と初等教育の接続の意義と課題、教育のデジタル化やアクティブラーニングなど新しい教育方法へ接続する保育の在り方、人間形成・人格形成の基礎を培う就学前カリキュラムと初等教育の接続、それを担う保育者の専門性の在り方などを報告する。そこから、幼保小接続の共通目標として国際的に何を見出し、日本の幼保小接続における子どもの人権と最善の利益の保障について、何を保育者・教員とともに検討しなければならないのか討論していきたいと考えている。

学校に行けない子どもたち (OOSCY) とは —アセアン諸国における就学阻害要因と教育協力ネットワークの展開—

司会者：澤村信英（大阪大学）

パネリスト：萩巣崇世（上智大学・カンボジアの事例）

乾 美紀（兵庫県立大学・ラオスの事例）

中矢礼美（広島大学・インドネシアの事例）

鴨川明子（山梨大学・マレーシアの事例）

森下 稔（東京海洋大学・タイの事例）

<趣旨>

研究委員会では、2018年度より基盤研究（C）「アセアン諸国の OOSCY に対する国際教育支援ネットワークに関する研究」を推進してきた。研究の目的は、学校に行けない子どもたち（OOSCY）問題が深刻なアセアンの国々で、どのような子どもたちが OOSCY の対象となっているのか、それを解決する方策としてどのような国際的ネットワークが構想されているのかを、アクター間（政府、国際機関、国際・現地 NGO）の連携に注目して明らかにすることである。

これまで、学校に行けない子どもたちに関する研究は、状況が深刻なサブサハラアフリカや南アジアに焦点が置かれてきたが、アセアン諸国でも無国籍、国境をまたぐ移住（移民）、貧困などが原因で、統計には現れず、目に見えない OOSCY が多く存在している。

特に、OOSCY の比率が高い国として、カンボジア、ラオス、インドネシア、タイが挙げられる。マレーシアは経済発展の高さに反して OOSCY が多く、タイと共に域内支援に深く関わってきたことから教育協力の実践を見出すことができる

本課題研究では、2018年度、19年度に各パネリストがそれぞれのフィールドで実施した調査結果をもとに、各フィールドに見られる OOSCY の特徴に焦点を当て、①学校に行くことができない原因、②現在置かれた状況をどのような方法で打開しようとしているか、について報告する。

以上の2点を明らかにすることで、学校に行けない子どもたちの問題を解決するために、アセアン共同体のような地域統合がどのように有効であるかについても検討することができる。コロナウィルスの流行で全世界の子どもたちが学校に行けない状況に陥る経験をした現在、特に開発途上国における OOSCY の存在と解決方法について注目すべきであろう。

若手研究者必携 **比較教育学のアカデミック・キャリア**

森下稔・鴨川明子・市川桂編著 A5・並製・二〇八頁・二二〇〇円

若手研究者必携 **比較教育学の研究スキル**

山内乾史編著 A5・並製・一五二頁・二二〇〇円

国際教育開発への挑戦—これからの教育・社会・理論

荻原宗世・橋本憲幸・川口純編著 A5・並製・二五六頁・三〇八〇円

世界のテスト・ガバナンス—日本の学力テストの行く末を探る

佐藤仁・北野秋男編著 A5・上製・二六四頁・三五二〇円

米国における協働的な学習の理論的・実践的系譜

福嶋祐貴著 A5・上製・三六〇頁・三九六〇円

現代アメリカ貧困地域の市民性教育改革—教室・学校・地域の

古田雄一著 A5・上製・三二二頁・四六二〇円

アメリカ教育例外主義の終焉

ジェフリー・ヘニグ著 青木栄一監訳 A5・上製・三二〇頁・三九六〇円

カナダの「開かれた」学校づくりと教育行政

平田淳著 A5・上製・三六〇頁・四一八〇円

湾岸アラブ諸国における外国大学分校の質保証

中島悠介著 A5・上製・二七二頁・四一八〇円

台湾における高等教育多様化の論理

廖于晴著 A5・上製・二四〇頁・三五二〇円

現代ロシアの教育改革—伝統と革新の光を求めて

ロシアンヒエト教育研究会 濱井岩崎・澤野タスチン・ヘコフ編著 A5・上製・四三三頁・三九六〇円

教学マネジメントと内部質保証の実質化

大学基準協会監修 永田恭介・山崎光悦編著 A5・上製・三四四頁・三五二〇円

日本の異言語教育の論点—「ハッピー・スレイフ」症候群からの覚醒

大谷泰照著 A5・上製・二四〇頁・二九七〇円

フレイベルの幼稚園の原理—批判的検討

W.H.キルパトリック著 乙訓稔・別府愛監訳 A5・上製・一八四頁・三三二〇円

学生参加による高等教育の質保証

山田勉著 A5・上製・一四四頁・二六四〇円

女性の大学進学拡大と機会格差

日下田岳史著 A5・上製・三〇四頁・三九六〇円

溝上慎一著 学びと成長の講話シリーズ(各四六・並製・続刊)

③ **社会に生きる個性**

自己と他者・拡張パーソナリティ・エージェンシー 二〇八頁・一六五〇円

② **学習とパーソナリティ**

「あの子はおとなしいけど成績はいいんですよね!」をどう見るか 二四八頁・一七六〇円

① **アクティブラーニング型授業の基本形と生徒の身体性**

一八四頁・一〇〇〇円

若者のアイデンティティ形成—学校から仕事への

ジェームズ・E・コテ&チャールズ・G・レヴィン著 河井亨・溝上慎一訳 A5・上製・二九六頁・三五二〇円

最新刊 **「書く」ことによる学生の自己形成** 谷美奈著

—文章表現「パーソナルライティング」の実践を通じて A5・上製・一八四頁・二六四〇円

越境ブックレットシリーズ(各A5版・並製・続刊)専門を超えて総合的に論じる

④ **食と農の知識論**—種子から食卓を繋ぐ環世界をめぐる

西川芳昭著 二二八頁・一〇〇〇円

③ **他人事・自分事**—教育と社会の根本課題を読み解く

菊地栄治著 二二八頁・一〇〇〇円

② **女性のエンパワメントと教育の未来**—知識をジェンダーで問い直す

天童睦子著 一〇四頁・一〇〇〇円

① **知識論**—情報クラウド時代の「知る」という営み

山田尚子著 二二〇頁・一〇〇〇円

① **教育の理念を象る**—教育の知識論序説

田中智志著 一六〇頁・一三二〇円

最新刊 **教職協働による大学改革の軌跡**

村上雅人著 A5・上製・二五六頁・二六四〇円

日本の大学経営—自律的・協働的改革をめざして

両角亜希子著 A5・上製・四二〇頁・四二九〇円

科学技術社会と大学の倫理(高等教育研究論集第4巻)

羽田貴史著 A5・上製・二九六頁・三五二〇円

比較教育学会 会員限定
比較教育学会の会員様限定!本広告内書籍や関連書の購入をご希望の方は、下記のQRコードまたはメール(toshindo_onlineorder1985@gmail.com)にて小社へご連絡いただきますと、**20%OFF**特価注文書(年度内有効)をお送り致します。是非ご利用ください!(小社直接注文のみ割引適用、公費対応可)

20% OFF 特価注文書
アマゾン
楽天ブックス
honto

東信堂

〒113-0023 東京都文京区向丘 1-20-6
http://www.toshindo-pub.com TEL 03-3818-5521 FAX 03-3818-5514
Email tk203444@fsinet.or.jp

北欧の教育最前線

市民社会をつくる子育てと学び

北欧教育研究会、林寛平、本所恵、中田麗子、佐藤裕紀 編著
浅井幸子、太田美幸、是永かな子、澤野由紀子、鈴木賢志、長谷川
紀子、原田亜紀子、伏木久始、松田弥花、松本進力助、両角達平、
矢崎桂一郎、矢田明恵、矢田匠、矢野拓洋、和氣尚美、渡邊あや 著

◎2420円

北欧における幼児から大学教育の「今」だけでなく、その歴史や文化も深掘りし、日本と共通の課題も取り上げている。最前線にいる執筆者陣だから書けた、生活者と研究者目線からみた立体的な一冊。



バングラデシュの就学前教育

無償制度化の構造的特徴と人びとの教育選択

門松愛 著 ◎3850円
費用、アクセス、質のトライアングルの視点から、各機関が提供する教育サービスの内実、人びとの価値観や教育選択に焦点をあて、無償制度化の意義と限界を検討していく。



フランスの高等教育改革と進路選択

学歴社会の「勝敗」はどのように生まれるか

圓山大祐 編著 ◎3520円
大学の大衆化は階層格差を拡大するのか。大学の大量化の時代に突入したフランスでは、何が起きているか。非選抜型大学にみる進路選択・入試改革、グランゼコールという選抜エリートへの道のり、ポロニャ・プロセスにみる改革から高等教育の課題を読み解く。



幼児教育・保育の国際比較

質の高い幼児教育・保育に向けて OECD国際幼児教育・保育従事者調査 2018報告書

国立教育政策研究所 編 ◎3850円
幼稚園、保育所、認定こども園の保育者及び園長・所長を対象にしたOECD国際調査の結果を基に、勤務環境、園での実践、研修、管理運営等に焦点を当て、質の高い幼児教育・保育の実現に向けて、日本にとって特に示唆のある内容・データを中心に整理・分析する。



学校の社会学 フランスの教育制度と社会的不平等

マリアヌ・ブランシャール、ジョアン・カウエツ＝ランプリエール 著
圓山大祐 監修 田川千尋 訳 ◎2530円

学カ工場の社会学

英国の新自由主義的教育改革による不平等の再生産
クリスティ・クルツ 著 仲田康一 著 濱元伸彦 訳 ◎4180円

多文化クラスの授業デザイン 外国につながる子どものために
松尾知明 著 ◎2420円

アフリカにおける遺児の生活と学校教育
マラウイ中等教育の就学継続に着目して
日下部光 著 ◎4180円

ケニアの教育における格差と公正
地域、学校、生徒からみる教育の質と「再有償化」
小川未空 著 ◎4950円

深化する多文化共生教育 ホリスティックな学びを創る
孫美幸 著 ◎2640円

途上国の学びを拓く 対話で生み出す教育開発の可能性
久保田賢一 編著 ◎2860円

「人種」「民族」をどう教えるか
創られた概念の解体をめざして
中山京子、東優也、太田満、森茂岳雄 編著 ◎2860円

イスラーム／ムスリムをどう教えるか
ステレオタイプからの脱却を目指す異文化理解
荒井正剛、小林春夫 編著 ◎2530円

世界を動かす変革の力
ブラック・ライブズ・マター共同代表からのメッセージ
アリシア・ガーザ 著 人権学習コレクティブ 監訳 ◎2420円

日常生活に埋め込まれたマイクロアグレッション
人種、ジェンダー、性的指向：マイノリティに向けられる無意識の差別
デラルド・ウィン・スー 著 マイクロアグレッション研究会 訳 ◎3850円

無意識のバイアス 人はなぜ人種差別をするのか
ジェニファー・エバーハート 著 山岡希美 訳 高史明 解説 ◎2860円

ホワイト・フラジリティ
私たちはなぜレイシズムに向き合えないのか？
ロビン・ディアンジェロ 著 貴堂嘉之 監訳 上田勢子 訳 ◎2750円

指導と学習の国際比較

よりよい数学授業の実践に向けて OECDグローバル・ティーチング・インサイト(GTI) 授業ビデオ研究報告書

国立教育政策研究所 編 ◎2750円



諸外国の高等教育

文部科学省 編著 ◎4620円
アメリカ合衆国、イギリス、フランス、ドイツ、中国、韓国、オーストラリア及びベトナムにおける高等教育制度をまとめた基礎資料。日本にとって特に示唆のある内容・データを中心に整理・分析する。



教育のディープラーニング 世界に関わり世界を変える
マイケル・フラン、ジョアン・クイン、ジョアン・マッキーチェン 著
松下佳代 監訳 濱田久美子 訳 ◎3300円

教育のワールドクラス 21世紀の学校システムをつくる
アンドレアス・シュライヒャー 著 OECD 編 ベネッセコーポレーション 企画・制作
鈴木寛、秋田嘉代美 監訳 小村俊平ほか 訳 ◎3300円

デジタル時代に向けた幼児教育・保育
人生初期の学びと育ちを支援する
アンドレアス・シュライヒャー 著 OECD 編 一見真理子、星三和子 訳 ◎2750円

教員環境の国際比較 専門職としての教員と校長
OECD国際教員指導環境調査 (TALIS) 2018報告書 [第2巻]
国立教育政策研究所 編 ◎3850円

生きるための知識と技能7 OECD生徒の学習到達度調査 (PISA) 2018年調査国際結果報告書 国立教育政策研究所 編 ◎3960円

TIMSS2019 算数・数学教育／理科教育の国際比較
国際数学・理科教育動向調査の2019年調査報告書
国立教育政策研究所 編 ◎4950円

諸外国の教育動向 2019年度版 文部科学省 編著 ◎3960円
図表でみる教育 OECDインディケータ(2020年版)
経済協力開発機構(OECD) 編著 矢倉美登里ほか 訳 ◎9460円

OECD幸福度白書5 より良い暮らし指標：生活向上と社会進歩の国際比較
OECD 編著 西村美由起 訳 ◎5940円

OECD人工知能(AI)白書 先端テクノロジーによる経済・社会的影響
OECD 編著 齋藤長行 訳 ◎3960円

全国データ SDGsと日本 誰も取り残されないための人間の安全保障指標
NPO法人「人間の安全保障」フォーラム 編 高須幸雄 編著 ◎3300円

女性の世界地図 女たちの経験・現在地・これから
ジョニー・シーガー 著 中澤高志、大城直樹、荒又美陽、中川秀一、三浦尚子 訳 ◎3520円

明石書店 〒101-0021 東京都千代田区外神田6-9-5 TEL 03-5818-1171 FAX 03-5818-1174
https://www.akashi.co.jp/ 振替口座00100-7-24505 *図書目録送呈 *価格税込

新グローバル時代に挑む 日本の教育

多文化社会を考える
比較教育学の視座

恒吉僚子・額賀美紗子 編

教育の「国際化」が叫ばれ、私たちの身近に国際的・文化的な多様化が現に進みながらも、なぜ教育の現実が変わらず、政策は対処的なものにとどまるのか。日本における文化的多様性の教育の現在、世界と比較した日本の教育の特徴に多様な方法でせまり、日本版多文化社会における教育のヴィジョンを探る。

A5判・240頁／3300円



未完の多文化主義

アメリカにおける人種、国家、多様性

南川文里 A5判・356頁／6160円

人種、民族、階級、ジェンダー、セクシュアリティなど、「アメリカ型多文化主義」の政治を歴史社会学的に追い、そのダイナミズムを読み解く。

グローバル化時代の教育改革

教育の質保証とガバナンス

東京大学教育学部教育ガバナンス研究会 編

教科教育から、学校・地域のデザイン、教師論、そして教育行政、国際比較まで、東大教育学部のスタッフが問題点を提起。

A5判・304頁／3520円

多文化共生の 社会への条件

日本とヨーロッパ、移民政策を問いなおす

宮島 喬 四六判・368頁／3850円

1990年施行の入管法改正から約30年。この間の移民政策とその実態、ヨーロッパとの比較から語る、移民社会・共生社会としての日本の姿。

日本の国際教育協力

歴史と現状

萱島信子・黒田一雄 編 A5判・400頁／6380円

1950年代から現在にいたるJICAに蓄積された膨大な資料分析から振り返る、途上国を舞台とした日本の教育協力経験の全貌。

外国人の子どもの教育

就学の現状と教育を受ける権利

宮島 喬 四六判・296頁／3080円

日本で暮らし、学び、生きていくために——日本的な「多文化共生」を超えた、外国人に開かれた社会をめざして。

境界線の学校史

戦後日本の学校化社会の周縁と周辺

木村 元 編 A5判・272頁／3960円

夜間中学、民族学校、実業教育…、今日なお揺らぐ日本の「公教育」の境界とその外部を歴史的に追う。

排除と抵抗の郊外

フランス(移民)集住地域の形成と変容

森 千香子 A5判・304頁／5060円

移民・マイノリティの若者が集住するパリ「郊外」を起点に、フランス主流社会とマイノリティとの亀裂をたどり、暴力の背後にある排除と抵抗の実態に迫る。

子どものための 哲学教育ハンドブック

世界で広がる探究学習

M.R. グレゴリー、J. ヘインズ、K. ムリス 編

小玉重夫 監修、豊田光世・田中 伸・田端健人 訳者代表

子どもたちの主体的な探究を育む教育実践の最先端を、理念と手法の両面から展望した、「考える力」の育成という目標実現のための手引き。

A5判・400頁／4950円

—筑波大学の知の発信—

筑波大学出版会
University of Tsukuba Press

日本比較教育学会 第 57 回大会準備委員会

委員長： 藤井 穂高

事務局長： 田中 正弘

委員： 川口 純

菊地 かおり

京免 徹雄

佐藤 博志

柴田 政子

菅井 篤

タスタンベコワ クアニシ

徳永 智子

藤田 晃之

発行：日本比較教育学会第 57 回大会準備委員会

〒305-8572 茨城県つくば市天王台 1-1-1

筑波大学・人間系（教育学域）

藤井 穂高（大会準備委員長）研究室気付

E-mail: jces57ut@gmail.com
